

■ 平成 27 年度「近畿知財塾（5期）」卒塾会合

開催日：平成28年2月3日（水） 14時～17時
場 所：常翔学園大阪センター 301号室

次第

1. コーディネータ（才川先生、内藤先生）による開会あいさつ
2. 塾生による卒塾レポートの発表、採点
- 休憩（10分） —
3. 卒塾式
4. 卒塾レポートの表彰、コーディネータによる総評
5. その他連絡事項など

塾生による卒塾レポートの発表、採点

- 各塾生が、レポート提出時に申告した発表時間を基準としてレポートを発表。（計 14 名）

発表者	発表テーマ
発表者 1	5年後のあるべき姿
発表者 2	中小企業における知財意識の浸透戦略
発表者 3	知財意識の向上（全てはお客様のために！）
発表者 4	知的財産戦略の モデルづくり
発表者 5	新規事業開発における知財スキルの生かし方と体系的整理
発表者 6	知財教育と発掘のために
発表者 7	グループ企業における 知財集中管理と分散管理のメリット・デメリット
発表者 8	知財立社 ～経営者の重要性～
発表者 9	知的財産活動の出発点
発表者 10	自社技術の把握に基づく製品開発
発表者 11	意匠と商標を取得して、 売りやすい環境をつくること。
発表者 12	社内の知的財産の整理及び全社員へ知的財産の浸透
発表者 13	知財戦略、体制、取組の整備
発表者 14	数年後に実行する知財活動に向けての構想
欠席者 1	成果につなげる知財活動
欠席者 2	目的と成果のリンク
欠席者 3	発明者などを対象とした制度の構築
欠席者 4	知財情報サービスによる社員の知財意識向上
欠席者 5	知的財産活動によってできること
欠席者 6	新社内における知的財産の掘り起こし、および社員の知財への認識や関心の向上に向けた、効果的な知的財産情報の発信

- 出席した塾生、コーディネータが上位3位までを決定。（3位に限り3名まで。また、コーディネータに限り、欠席者も採点対象とした）
- 第1位：20点／第2位：10点／第3位：5点で点数付けし、コーディネータは3倍で計算して、参加者の合算で採点。

- 採点基準は、①レポート全体が各回の塾の内容に沿った内容になっているか、②塾で学んだ内容が、日々の知財活動に活かされているか、③数年後に想定する知財戦略、体制、取組みに具体性があり、なおかつ実現により企業活動の活発化が期待できる内容であるか、④ ①から③の記述内容が連動しているかの4点。

卒塾レポートに対するコーディネータの総評

当日の様子



内藤浩樹先生



才川伸二郎先生

<内藤先生>

知財活動をうまく進める上で大切なこと

- 企業における知財活動のあるべき姿は、業種や知財部署の有無、皆様の役職など置かれている立場といった、様々な要素により全く異なる。また、企業における知財活動の善し悪しは人材につきる。どんなにきれいな組織やマニュアルが整備されていても、知財活動を推進する人材がいないと何もできない。
- では、知財活動をうまく進めていく上で、何が大切なのか。それは、企業活動において、色んな立場の社員に様々な問題や悩みがある中、企業の経営戦略に関わるような「どう企業を変えていくべきか」について考えている人がちゃんとしていることが重要であり、その「どう企業を変えていくべきか」を考えることが一種の知財活動であるとは私に思っている。そして、それを考える人については、知的財産担当といった名前を付ける必要はない。営業、経営、人事など、誰でも良いと思う。
- 皆さんが中心となって、知財活動を進める仲間づくり・連携づくりをしていけば、企業はきっとよくなると思うし、社長も知財活動の重要性を理解するようになり、さらに知財活動が盛り上がっていくものだと信じている。

これからが実践的な知財の勉強の時

- 皆さんの知財の勉強は、決して今日の発表で終わりという訳ではない。これから、皆さんが会社をどう変えていくのかという姿を、どこかで垣間見ることができれば良いと思っている。
- 今日はご苦労様でした。貴重なお話が聞くことができたと思っています。有難うございました。

<才川先生>

色んな職種の間がいれば、経営に知財を結び付けることを考える時に頼りになる

- 皆さんの発表の中で、「経営者に対し、知財の重要性について伝えていきたい」というものがあつたが、皆さんが経営者の一角に入り込んでいくんだという意識を持ってほしい。
- そのためには、今のうちに人材ネットワークを作っておくこと。もうちょっと先に「わが社はこれからこんなことをしたい」と、経営に知財を結び付けることを考えなければならない時に、営業や研究開発、法務、もちろん知財など、色んな職種の間がいれば頼りになる。

皆さんの1年後が見てみたい

- 今日の発表を見ていると、皆さんの1年後、ちゃんとやってるのかなあと見てみたいと思った。陰ながら応援するので、ぜひ頑張っていたきたい。皆さんの社会人としての時間はまだまだ続くのだから、絶対に実現できると思ってやってほしい。

レジュメは伝えたい人にとって分かりやすく作らないとダメ

- 最後に、1つだけ辛口なコメントをさせていただく。
- 今日の発表を見て思ったのは、プレゼン資料の字が小さいこと。大学院生を採点する場合であれば、私ならば減点するなど思ったものが多く見られた。今日は、同じ知財塾の塾生同士なので、字が小さくても分かってもらえると思う。しかし、皆さんが違う部署に行って、今日の話の説明する場合はこの資料ではよくない。
- パワーポイント1枚には、1つのことだけを説明すること。ちなみに、私の知財塾でのプレゼン資料は、後で見返していただくことを想定しているので、少し情報を多めに掲載しているという感覚で見えていただきたい。
- 今日のご苦労様でした。この塾生のネットワークを今後の企業活動に活かしてほしい。また、職場の後輩を今後の知財塾に招いてほしい。

【近畿経済産業局・コメント】

- 塾生の皆さんには多忙な業務の中、近畿知財塾にご参加いただいたことに対し御礼を申し上げたい。
- 本日の発表を通じて近畿知財塾で学ばれたことを既に知財活動で実践しておられることが分かり、非常に嬉しく思った。
- また、2年間の塾の運営に携わっていただいた箱田先生、才川先生、内藤先生をはじめ、講師等でご協力頂いた大工大の先生方及び事務局に御礼を申し上げたい。
- 近畿知財塾の受講を機に知財総合支援窓口をはじめとする各種支援施策をご活用いただきたい。

以上